

令和2年度 神戸鈴蘭台高等学校学校評価

【自己評価】

※ A=4.0~3.25 B=3.25~2.5 C=2.5~1.75 D=1.75~1.0

評価の観点	評価項目	評価	自己評価、今後の方策
開かれた学校づくり	1 学年通信、保健だより、図書館だより等を定期的に発行し、情報を発信することができた。	A	今後も継続し充実させていく。
	2 ホームページ等を適切な時期に更新し、広く情報を発信することができた。	A	HPの変更、協力により一定の効果はあがった。さらに充実させていく。
	3 行事や部活動等を通して、地域社会や地域の中学校等と積極的に交流し、連携を取ることができた。	B	感染予防を前提として、交流の機会を再編する必要がある。
	4 進路、生徒指導、教育相談等、学校の諸課題について校内研修が計画的にできた。	B	研修の機会を設け、教育活動に実践活用させていく。公開授業、研究授業、授業アンケートを通して授業改善に取り組んできた。今後も継続していく。 研修の機会を設け、教育活動に実践活用させていく。今年度初めてClassiを導入した結果、ITツールを操作すること自体が研修につながったと思われる。今後IT環境が整っていけば、もう少し取り組みやすくなるのではないかと。
学力の定着及び進路保障	5 3年間を見据えて進路指導に関する年間計画を作成し、組織的、継続的に進路指導が実施できた。	B	指定校の再募集停止、GTECの導入、方向性が進学指導(専門学校も当然含む)を中心と確認されたことを受け、「進路に関する資料」に進路年間計画表があるので、これをベースに生徒の入学時から意識付けを行っていく。
	6 アンケートや面談等を通して、生徒の希望や意識を把握し、その内容を進路指導に反映させることができた。	B	総合的な探究の学習やLHRの時間に進路に対しての意識付けができた。今後はより現実的な指導を行っていきたい。進路意識を高めさせるための集会やLHRを実施した。進路指導に際して個人面談・三者面談などを繰り返し、進路実現を図るようにした。
	7 進路ガイダンスや進路ホームルーム等の実施を通じて、生徒が具体的な進路目標を持つように指導できた。	B	今年度初めてWEBを利用した進路相談会やオープンキャンパスが実施可能と判断された。コロナ禍でも対応できる進路ガイダンスも意識しておく必要がある。
	8 学力の定着を図るために、予習・復習などの学習習慣を身につけさせることができた。	B	学習習慣の定着を早い段階で進めていく必要がある中でできてきている。今後は時間の使い方や授業の理解度を測る取り組み、そして進学に対する意識付けにも継続的に取り組む必要がある。
	9 小テストや課題などを活用し、授業の取り組みへの意識を高めさせることができた。	A	学力の定着をはかる取り組みで、各教科が工夫して熱心にされてきている。今後もさらに向上できるように、継続していく必要がある。
	10 習熟度別授業や少人数授業では、個に応じた指導を効果的に行うことができた。	B	該当教科では、少人数を活かした指導ができています。少人数ができるクラスでは、その利点を活かした授業を工夫していく必要がある。
	11 授業・補習・小テストなどを通して、生徒の実情に合わせた学習指導ができた。	A	学習習慣と学力定着をはかるために、小テスト等の実施とさらなる学力の向上を目指すために希望者補習、底上げのための補充指導を行った。小テストは授業やLHRを利用して実施した。また早朝補習を実施したり、希望者に補習プリントを配布した。習熟度別授業を通して個別の能力・関心に合わせた授業を行った。また学力不足を補うために補充を実施した。
	12 「総合的な学習・探究の時間」を計画的に実施することができた。	A	各学年統一したテーマにもとづき実施された。運営面でも組織的に取り組めた。2年生では、高大連携の講座も、コロナ禍の中、大学側のご配慮により、何とか概ね成果を上げることができた。今後も継続していきたい。また、よりよいものになるように内容を含め改善工夫していく必要がある。
	13 生徒が理解しやすい授業を工夫することができた。	A	授業公開や研究授業などを含め、授業改善・検証を重ねながら、各教科担当で創意工夫をしながら、取り組めてきている。今後は教科内や教科間で、教材研究や指導方法を向上させながら取り組んでいく。

評価の観点	評価項目	評価	自己評価、今後の方策
人間性豊かな生徒の育成	14 服装・頭髪等、望ましい身だしなみを身につけさせることができた。	B	全職員が共通理解を持って取り組み、ある程度の成果はあがっているのですが、継続して行うことが必要である。
	15 挨拶や遅刻指導等を通じて、基本的な生活習慣やマナーを身につけさせることができた。	B	授業や集会時などの機会をとらえ、挨拶指導を行うなど基本的な生活習慣を身につけさせていきたい。携帯電話や感染症予防のためのマスク着用など、マナー指導を引き続き指導していきたい。基本的な生活習慣とあわせて、今年度はマスク着用など感染防止に努めるように指導した。授業や集会時に挨拶を奨励するとともに、朝・夕の登下校での挨拶につとめるようにした。
	16 清掃・美化活動への意識を高めることができた。	B	清掃当番により、概ね取り組むことはできた。工事によるゴミステーションの移動などの生徒、職員への周知徹底が難しかった。コロナ対策としての美化活動は、どこまでできたかわからないが、継続して実施していく。
	17 生徒会・部活動等への積極的な参加を促す工夫ができた。	A	コロナの影響で例年とは違った制約の中で部登録を行うこととなったが、新入生の部活動入部率も前年度と変化はなく、生徒は積極的に活動に参加している。
	18 生徒会行事について、生徒の自主的活動の推進を図り、生徒の主体的な企画・運営による行事を活性化させることができた。	B	コロナの影響で多くの学校行事が中止となったが、体育祭等前年度とは違った形式で工夫を凝らして行えたものもあった。
	19 学校行事・ホームルーム活動などを通じて、生徒に協調性や社会性・計画性を身につけさせることができた。	B	生徒は行事等に積極的に取り組むことができおり、ホームルーム活動において、グループワークを積極的に取り組ませることで、目標を達成しつつある。行事が少なくなったが、校外学習や体育祭等でグループ活動、HR活動で協調性や社会性を身につけさせた。体育祭や遠足などの行事を通して、社会性や協調性を養うようにつとめた。
	20 学校の実情に応じた防災避難訓練の計画・実施ができた。	B	訓練の工夫、施設整備の充実を図るとともに、危機管理意識を高める工夫を計画する。
	21 人権ホームルームの充実を図り、計画的に実施することができた。	B	今年度は異文化の理解をテーマに、映画鑑賞やワークシート作成を行うためにホームルームを有効に活用した。
	22 人権に関し、充実した教育研修会を実施することができた。	B	例年1学期に行うものであったが、今年度はコロナの影響で実施できなかったため、次年度は研修の機会を設ける必要がある。
	23 キャンパスカウンセラーなどによる研修を実施し、生徒指導等の在り方について教職員の共通理解を図ることができた。	B	コロナ対策をしながら、担任及びキャンパスカウンセラーにより実施できた。引き続き実施していく。
24 生徒の悩みの相談に応じて適宜個人面談などを行い、生徒の内面理解に努めた。	B	気にかかる生徒に対して、学年団をはじめ多くの先生方に対応していただいた。今後もキャンパスカウンセラーも含め、各関係部署と連携をはかりながら手厚い見守りを行っていきたい。個人面談を初めとし、学校生活内で気にかかることについては、声かけを行い、状況把握に努めた。また情報は学年で共有し、状況に応じて教育相談を勧めた。生徒からの進路・友人関係・家族などに関する悩みの相談にのり、アドバイスをおこなった。また、キャンパスカウンセラーにもつなぎ悩みの解決に努めた。	
25 いじめのない学校作りに向け、アンケート調査等により早期発見に努めるとともに、未然防止や早期対応に向けて組織的に取り組むことができた。	B	いじめアンケートの集約を素早く行い、学年と連携を図り、全職員と情報を共有することができた。次年度も引き続き継続していくつもりである。	
特学 校化の	26 国際コミュニケーションコースの特色ある教育活動を実施することができた。	B	コロナの影響により教育活動が制限された面はあったが、新たな取り組みも実施することができた。次年度以降さらに充実させていきたい。
働き方 改革	27 勤務時間の適正化に向け、定時退勤やノー部活デー・ノー会議デー等に前向きに取り組むことができた。	C	「従事時間申告票」提出率が98%となり、教員のタイムマネジメント意識が徐々に向上しているといえる。生徒自宅学習期間中は超過勤務も少なかったことから、教員の本務は生徒対応であることが改めて確認できた。特に部活動顧問の超過勤務時間が長いこと、部活動指導業務の均等化を進めていくことも大切である。